日本医療情報学会看護学術大会の口演Bの抄録について

○山田 太郎1) 鈴木 花子2)

1)○○大学 2)○○病院

【背景】本抄録は、2025年当時に日本医療情報学会看護学術大会の一般口演Bの抄録のひな形を作成するために書きはじめたものである。演題名は内容を適切に表現したものとすること。背景では、研究や実践の目的を明確にし、なぜこのテーマが重要かを説明する。

【方法】抄録本文は本テンプレートを用いて800字以内で記載する。フォントや余白は変更しない。本文は原則として、背景、方法、結果、考察、結語の順に記す。方法では、研究や実践の具体的な手法を説明する。対象やサンプルの選定基準、データ収集方法、使用したツールや手順などを記載する。例えば、「〇〇を対象に△△の方法でデータを収集し、□□を用いて分析した」といった記載とする。

【結果】得られた主要な結果を具体的に示す。口演Bの抄録では、図表の利用は認められない。箇条書きも認められないため、項番は(１)や(ア)、①と明確に識別できるものを利用する。重要な発見や統計的な結果を簡潔に説明する。例えば、「〇〇が△△に対して有意に高いことが示された」といった形で記載する。実践報告の場合は、活動の成果や参加者の反応なども含めると良い。なお、本サンプルの結語までの文字数は742字である。

【考察】結果の意味を解釈し、先行研究や実践と比較してどのように一致または異なるかを説明する。また、研究や実践の限界や今後の課題についても言及する。例えば、「〇〇が△△に対して有意に高いことが示されました」といった記載とする。

【結語】研究や実践の主要なポイントを簡潔にまとめ、結論を明確に述べる。また、今後の方向性や課題についても示す。例えば、「本研究は〇〇の有効性を示し、△△の理解を深めるものである。今後は□□を対象にさらなる研究が必要である」といった形で締めくくる。